

安曇野市環境基本計画

～みんなで安曇野の環境を考えよう～

平成 22 年度年次報告書

平成 23 年 3 月

安 曇 野 市

■ 目 次

1. 平成 22 年度の取り組みの概要	1
2. 平成 22 年度の取り組み結果	3
2-1. 環境基本計画推進会議	3
《1》 会議の開催状況	3
《2》 市全体のテーマについて	4
2-2. 安曇野環境市民ネットワーク	7
《1》 概要と事業内容	7
《2》 平成 22 年度の経過	7
2-3. 環境基本計画庁内調整会議	8
2-4. 環境審議会	8
2-5. あづみ野環境フェア 2010	9
2-6. 安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2011	13
3. 行動計画実施結果	16
3-1. 行動計画について	16
3-2. 重点プロジェクトの一覧	16
3-3. 各重点プロジェクトの結果	18
《1》 CO ₂ 削減目標を設定する	19
《2》 生物多様性を維持する	20
《3》 森づくりを推進する	21
《4》 緑化による環境負荷の低減	22
《5》 歩いて楽しいまちづくり	23
《6》 耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る	24
《7》 地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる	25
《8》 豊かな地下水を保全する	26
《9》 ごみを減らそう	27
《10》 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり	28
《11》 環境マネジメントシステムの導入	29
4. 次年度へ向けて	30
4-1. 市全体のテーマの進行	30
4-2. 重点プロジェクトの推進	30
4-3. その他、推進会議委員からの意見等	30
参考：環境基本計画の推進体制と進行管理	33

■ はじめに

安曇野市環境基本計画の取り組みは、3年目が終わりました。

この年次報告書は、環境基本計画に関するこの1年の取り組みを振り返り、次の年度はどのようなことに取り組むべきかを明らかにするために作られるものです。

平成22年度は、平成21年度策定した「環境行動計画」に基づき、重点プロジェクトの具体的な取り組みがスタートしました。環境基本計画推進会議では、実際の進め方を検討し、実施状況を確認するとともに、評価方法を検討してきました。その他、「安曇野環境市民ネットワーク」は基本的な組織固めを、「あづみ野環境フェア2010」ではより多くの人に取り組んでもらうためのきっかけづくりなどを進めました。

なお、この年次報告書は環境基本計画推進会議が中心となってとりまとめました。

1. 平成 22 年度の取り組みの概要

安曇野市環境基本計画がスタートして 3 年目となる平成 22 年度は、昨年度策定した具体的な行動の指針である「環境行動計画」に基づき、実質的な取り組みを進めてきました。

また、昨年度設立した「安曇野環境市民ネットワーク」の会合も定期的に行われ、情報交換や交流といったネットワークとしての基礎固めをおこなってきました。公募による実行委員が中心となり、ネットワークの協力で開催されたのが、3 回目となる「あづみ野環境フェア 2010」です。今年は多くの来場者で賑わいました。

下の表に、平成 22 年度における取り組みの概要を示します。

平成 22 年度の取り組みの概要

区 分	名 称	内 容
推進体制	環境基本計画 推進会議	<ul style="list-style-type: none">・計 6 回の会議を開催した。・年次計画の策定、進捗状況の把握、年次報告書のとりまとめを行った。・「市全体のテーマ」について検討した。
	安曇野環境市民 ネットワーク	<ul style="list-style-type: none">・「安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2011」を開催した。・安曇野環境フェア 2010 の開催協力を行った。
	環境基本計画 庁内調整会議	<ul style="list-style-type: none">・環境行動計画、地球温暖化防止実行計画についての取り組みを確認した。・温室効果ガス排出量推計結果について確認した。
	環境審議会	<ul style="list-style-type: none">・環境基本計画、地球温暖化防止実行計画についての取り組み状況を確認した。
イベント等	あづみ野環境 フェア 2010	<ul style="list-style-type: none">・H22 年 10 月 9 日、10 日の 2 日間にわたり開催した。・71 の団体・個人等によるブース出展し、2 日間で約 1,500 名の方が来場した。

また、環境基本計画第 5 章「計画の実施に向けた第一歩」に記載した項目の平成 22 年度末時点における進捗状況を、次ページの表に示します。推進体制の整備については「環境マネジメントシステムの検討」を除いてほぼ実現できました。一方で、「環境カレンダーの制作」については昨年度に引き続き未着手となっています。状況を次ページの表に示します。

環境基本計画第5章「計画の実施に向けた第一歩」の進捗状況

区分	項目	目標年次	平成22年度末の進捗状況
1. 環境基本計画の推進と組織横断的な調整及び事業を行う専任部署の設置	専任部署の設置	平成20年度	設置済（平成20年度）
2. 推進体制の整備	環境基本計画推進会議の設置	平成20年度末	設置済（平成20年度）
	安曇野環境市民ネットワークの設置	平成20年度末	設置済（平成21年度）
	環境行動計画の策定	平成21年度末	策定済（平成21年度）
	環境マネジメントシステム（EMS）の検討	平成21年度末	検討途中
3. 環境に関する情報の提供	環境フェアの開催	毎年1回開催	本年度は平成22年10月9日、10日に開催
	あづみ野環境塾の開催	毎年1回以上開催	本年度は「安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム」として平成23年2月11～13日に開催
	環境カレンダーの制作	毎年制作	未着手
	ウェブページ上での情報公開	随時公開	公開中

次項以降において、それぞれの取り組み状況を説明します。

2. 平成 22 年度の取り組み結果

2-1. 環境基本計画推進会議

《1》 会議の開催状況

環境基本計画の推進の上で重要な位置を占めている「環境基本計画推進会議」は、市民・事業者・行政の取り組みの施策・事業における提案、計画推進のための啓発活動や支援、進捗状況の点検・評価と年次報告の作成を主な目的としています。委員は、事業団体の推薦を受けた者、環境保全活動団体の推薦を受けた者、公募により選考された市民、市長が必要と認めた者（環境基本計画策定委員経験者）からなる 15 名で構成されています。

平成 22 年度は「環境行動計画」で策定した重点プロジェクトを推進するため、年次計画の策定から実施状況の把握、平成 22 年度の評価等について、6 回の推進会議と 6 回の幹事会を開催しました。また、重点プロジェクトの詳細を検討するワーキンググループ（WG）ごとにこの他にも会合を開いています。

WGの編成を下の表に、推進会議等の経過を次のページに示します。

ワーキンググループ（WG）の編成

WG名	対象の重点プロジェクト
自然環境	②生物多様性を維持する ③森づくりを推進する
まちづくり・ 景観	④緑化による環境負荷の低減 ⑤歩いて楽しいまちづくり
資源・ エネルギー	①CO ₂ 削減目標を設定する ⑧豊かな地下水を保全する ⑨ごみを減らそう
農業	⑥耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る ⑦地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
環境学習	⑩環境について教え学び、取り組む仕組みづくり
環境マネジメン トシステム	⑪環境マネジメントシステムの導入

安曇野市環境基本計画推進会議の経過

日 時	会議名称	内 容
平成 22 年 5 月 10 日	第 1 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱と正副会長の選出。 ・環境行動計画重点プロジェクトについて、本年度の実施内容を確認した。 ・ワーキンググループ（WG）の編成を行った。 ・本年度の進め方及び日程について検討した。
6 月 8 日	幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・全体スケジュール、WG 編成及び担当する重点プロジェクトについて検討した。
6 月 29 日	第 2 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・WG ごとに本年度の実施計画を検討した。 ・「市全体のテーマ」の考え方について検討した。
7 月 27 日	幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・WG 別の実施計画検討状況について確認した。 ・「市全体のテーマ」について検討した。
8 月 31 日	第 3 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画について、各WG 座長より報告し、全体での検討を行った。 ・上記の結果を受け、再度各WG で検討した。
10 月 19 日	幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・WG 別の実施計画検討状況について確認した。 ・「市全体のテーマ」について検討した。
11 月 16 日	幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・「市全体のテーマ」について検討した。 ・本年度の年次報告書（案）について検討した。
12 月 7 日	第 4 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画の検討結果及び進捗状況について確認した。 ・年次報告書（案）について検討した。 ・「市全体のテーマ」について検討した。
平成 23 年 1 月 18 日	幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・年次報告書（案）について検討した。 ・重点プロジェクトの実施結果の評価基準及び結果の記述方法について検討した。
2 月 4 日	第 5 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・年次報告書（案）について、WG ごとに進捗状況を把握し、達成状況の評価を行った。
3 月 1 日	第 6 回 推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・年次報告書について検討した。
3 月 22 日	幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・年次報告書についての最終確認を行った。

なお、重点プロジェクトの実施状況については、「3-3. 各重点プロジェクト結果」にまとめました。

《2》 市全体のテーマについて

平成 22 年度の推進会議において、「市全体のテーマ」について検討し、決定しました。「市全体のテーマ」とは、安曇野市の環境をより良くするために、市民・事業者・行政の各主体が積極的に取り組む共通テーマです。現在進行中の環境基本計画は、対象としている分野が非常に多岐にわたっており、実際にどのような成果が上がっているのか見えにくい部分があります。そこで、「市全体のテーマ」を設定し、共通の目標に向かって各主体が取り組むことにより、目に見える形で成果が上がることを期待しています。

現在の取り組みの課題

- ・計画が知られていない？
- ・一部の人だけが取り組んでいるだけ？
- ・より良い方向へ進んでいない？

何が必要か？

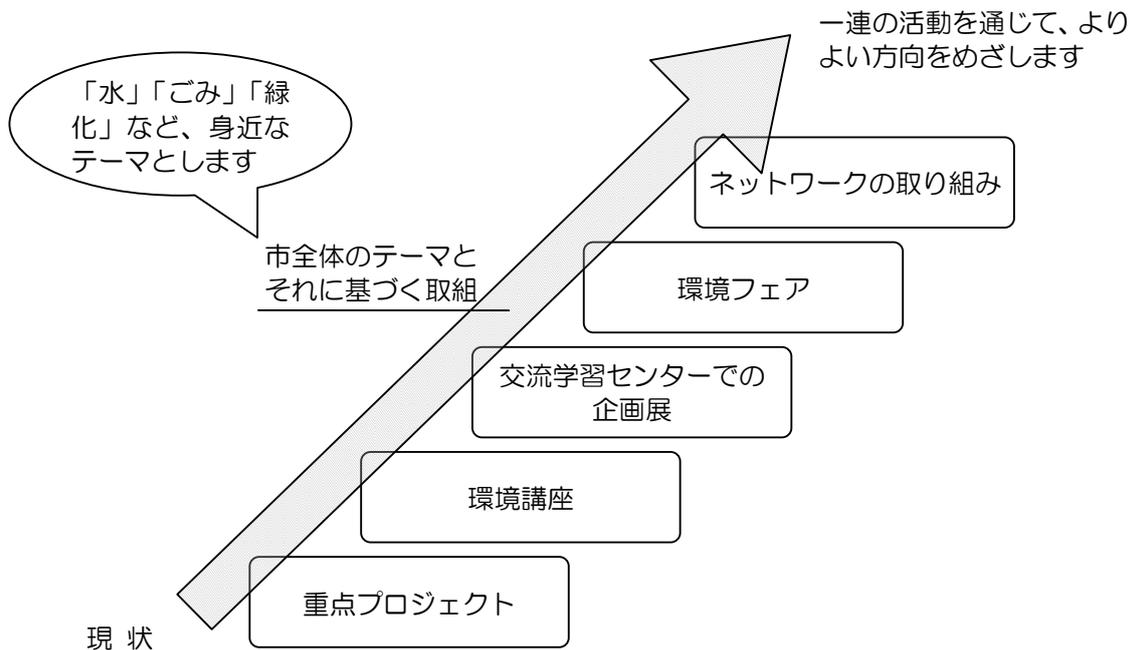
- ・多くの人に目を向けてもらうこと、関心をもってもらうことが必要。

そこで…

- ・市全体の統一テーマを決め、いろいろな場面で目にふれる機会をつくる。

「市全体のテーマ」の必要性

この「市全体のテーマ」は、現在進行中の重点プロジェクトとリンクさせるとともに、環境フェアや各種生涯学習講座との連携を図って目に触れる機会を増やすことにより、市民など様々な人々の関心を高め、取り組みへの機運が高まることを目的としています。



「市全体のテーマ」のめざすもの

「市全体のテーマ」設定にあたっての視点は、以下のとおりとしました。

- ・主に市民が取り組むきっかけづくり（市民が気軽に、楽しんで取り組める項目を設定する）
- ・安曇野の環境をより良い方向へ変えていく（成果が目に見えるように）

推進会議における検討の結果、「市全体のテーマ」として「水」と「地球温暖化」を取り上げることとしました。

また、「水」については年次テーマとして平成 23 年度から取りかかりますが、進捗状況に応じて毎年見直すこととします。「地球温暖化防止」については、現在進行中の環境基本計画の計画期間（平成 20 年度～平成 29 年度）を通じての長期テーマとして設定しました。

各テーマの概要は、以下のとおりです。

年次テーマ 『安曇野の水を知り、守り、育む』

【選定の理由】

- ・ 水は私たちの生命の基盤であるとともに、安曇野の風土や産業を成り立たせている根源的な存在です。安曇野と言えば水をイメージするほど、安曇野と水は密接な関係があります。
- ・ 水に恵まれた安曇野に暮らす私たちは、ふだんはあまり水を意識していませんが、世界を見渡せば日々必要な水にも事欠く人々の方が圧倒的多数です。水をめぐって争いが起きるほど、安全な水の確保は重大な問題です。
- ・ 日々使っている水を見つめ直し、豊かな水を後世へ守り伝えていくために、みんなで取り組みます。

【関連する計画など】

- ・ 第一次安曇野市総合計画基本計画
(将来都市像：「北アルプスに生まれ ころろ輝く 田園都市 安曇野」)
- ・ 安曇野創出プロジェクト「安曇野水物語」
(コンセプト：水で結ばれ、水と共に生きる安曇野)

【関連する重点プロジェクト】

- ・ 歩いて楽しいまちづくり
- ・ 豊かな地下水を保全する
- ・ 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり

●主体別の取り組みの内容

市 民	事業者	行 政
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水を上手に利用する ・ 雨水を利用する ・ 排水にごみや油などを流さない ・ 河川の一斉清掃に参加する ・ 安曇野の水を味わい、体験する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水を上手に利用する ・ 雨水を利用する ・ 排水にごみや油などを流さない ・ 河川の一斉清掃に参加する ・ 安曇野の水を味わい、体験する機会を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地下水保全条例」を制定する ・ 安曇野の水に関する情報発信をおこなう ・ 学校での環境学習、地域での生涯学習を進める

長期テーマ 『地球温暖化防止にみんなで取り組む』

【選定の理由】

- ・ 地球温暖化による気温の上昇はすでに実感として感じられるようになってきており、地球温暖化防止は地球全体で取り組むべき課題と言えます。
- ・ 地球温暖化は地球規模の環境問題ですが、防止のためには日々の暮らしや営みの中で地道に取り組む必要があることから、安曇野市環境基本計画の通期のテーマとして、継続的に取り組みます。

【関連する重点プロジェクト】

- ・ CO₂削減目標を設定する
- ・ 森づくりを推進する
- ・ 緑化による環境負荷の低減

●主体別の取り組みの内容

市 民	事業者	行 政
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らがどのくらいの温室効果ガスを出しているのかを知る ・ 省エネ、省資源などの取り組みに、できるところから積極的に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業活動に伴う温室効果ガス排出量を算出し、削減目標を設定する ・ 省エネ、省資源などの取り組みに、できるところから積極的に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市全体の温室効果ガス排出量を算出する ・ 市全体の対策計画である「地球温暖化対策地域推進計画」を策定する ・ 地球温暖化防止のための取り組みの普及啓発をはかる ・ 市役所を対象とした「地球温暖化防止実行計画」を推進する

平成 22 年度は、この市全体のテーマの検討を行いました。

来年度以降、環境フェアなどの各種イベントを通じて繰り返しアピールを行うとともに、これらのテーマに準じたキャンペーン等を企画し、実施します。また、広報等を通じた普及啓発も継続的に行います。

2-2. 安曇野環境市民ネットワーク

《1》 概要と事業内容

「安曇野環境市民ネットワーク」は、市内全域または各地域において環境保全のための活動を行っている各種団体のとりまとめ、および連絡・調整を行うことを目的として平成 21 年 9 月に発足しました。

事業内容は、大きく分けて①コミュニケーション、②環境学習の企画と実施、③環境基本計画および行動計画の実施、④普及啓発、の 4 つです。

安曇野環境市民ネットワークの事業内容

区 分	内 容
①コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク参加団体および個人に関する情報の提供と公開 ・ 参加者同士のコミュニケーション ・ 交流会等の企画
②環境学習の企画と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境学習プログラムの企画と実施 ・ 環境学習におけるリーダー等、地域に貢献できる人材の育成 ・ ネットワークのつながりを活用した環境学習の企画と実施
③環境基本計画および行動計画の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境基本計画、環境行動計画の推進への協力 ・ 環境保全上の課題への対応
④普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット上での情報公開 ・ 活動拠点における情報提供 ・ 各種環境イベントの企画と運営、参加と協力

《2》 平成 22 年度の経過

平成 22 年度は、総会を 1 回、全体会を 5 回開催したほか、全体会の前後に運営委員会を開催しました。

また平成 23 年 2 月 11～13 日には、ネットワークがとりまとめた各団体の環境学習プログラムについての紹介を目的として『あづみ野環境市民ネットワーク・フォーラム 2011～環境学習プログラムの推進に向けて～』を開催しました。

安曇野環境市民ネットワークの経過

日 時	会議名称	内 容
平成 22 年 5 月 28 日	平成 22 年度総会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 21 年度事業報告 ・ 平成 22 年度事業計画及び収支予算、会費の決定
7 月 8 日	第 1 回全体会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あづみ野環境フェア 2010」への協力依頼 ・ ウェブページ内容についての検討 ・ 環境学習プログラムづくりの推進について

日 時	会議名称	内 容
9月22日	第2回全体会	<ul style="list-style-type: none"> ・「安曇野フェスタ」「あづみ野環境フェア 2010」「三郷文化産業展」への協力体制についての検討 ・環境学習プログラムの提供についての検討
12月2日	第3回全体会	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度のネットワーク交流会についての検討
12月21日	第4回全体会	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度のネットワーク交流会についての検討 →今回は環境学習プログラムを広める機会と位置づけ、名称を「安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2011」とした。
平成 23 年 2月1日	第5回全体会	<ul style="list-style-type: none"> ・「安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2011」についての検討

これらの会議等の他に、参加団体間の情報交換及び情報発信として、メーリングリスト上での情報交換、ウェブページ「あづみ野エコプラン.net」上でのネットワークの紹介などを行いました。

2-3. 環境基本計画庁内調整会議

庁内の担当課を明確化した上で、関連する施策の連携を強化し、環境に関する施策・事業を効果的に推進するため、庁内の連絡調整を行うことおよび庁内地球温暖化防止実行計画等の策定・推進・評価等を行うことを目的として設置しました。

平成 22 年度は、環境基本計画の推進を図るとともに、「環境行動計画」の検討、庁内における地球温暖化防止実行計画の推進等を行いました。

環境基本計画庁内調整会議の経過

日 付	会議名称	内 容
平成 22 年 4月28日	第1回庁内会議	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画「平成 21 年度年次報告書」について ・環境行動計画について ・地球温暖化防止実行計画について ・改正省エネ法の取組について
10月1日	第2回庁内会議	<ul style="list-style-type: none"> ・環境行動計画（平成 22 年度実施計画）について ・温室効果ガス排出量推計結果について ・地球温暖化防止実行計画平成 21 年度取り組み結果について

2-4. 環境審議会

安曇野市環境基本条例に基づき設置されるもので、環境基本計画に関することや環境保全に関する基本的事項を調査審議するための学識経験者中心の諮問機関です。

市長の諮問に応じ、環境基本計画の進捗状況を管理する「環境基本計画年次報告」の点検・評価を行っています。

平成 22 年度は 1 回開催され、環境基本計画の年次報告書等について検討しました。

環境審議会の経過

日 付	会議名称	内 容
平成 22 年 4 月 28 日	第 1 回 環境審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画 平成 21 年度 年次報告書について ・地球温暖化防止実行計画について

2-5. あづみ野環境フェア 2010

(1) 開催のねらい

環境基本計画および環境行動計画についての取り組みを市民に広く紹介し、それぞれの立場で行動していただくきっかけとなることを目的に、初開催の平成 20 年以来 3 回目として開催しました。

今回の開催の目的は、以下の 3 点でした。

- ① 市内の環境に関わるさまざまな情報・現状を市民の方に知っていただく
- ② 『安曇野環境市民ネットワーク』をはじめ、市内外で環境活動をおこなっている団体等を紹介し、その環を広げていく
- ③ 環境基本計画、および環境行動計画を知っていただき、実践してもらう

(2) 開催概要

【テーマ】 みんなで安曇野の暮らしと環境を考えよう

～知ろう そして 行動しよう～

【主催】 安曇野市、あづみ野環境フェア 2010 実行委員会

【日時】 平成 22 年 10 月 9 日（土） 10:00～17:00

10 月 10 日（日） 9:00～16:00

【会場】 安曇野市堀金総合体育館

【内容】

■ 環境講演会

- ・森田正光氏「異常気象と環境問題」

■ 展示ブース

- ・安曇野市、企業、団体、学校、個人等による展示（計 71 団体・個人）

■ ぷちエコセミナー

- ・ブース展示会場内における、出展団体等によるミニセミナー

■ くるりん講座

- ・アカゲラ巣箱づくり

■ ステージ

- ・キッズダンス（キッズダンスカンパニー）

■ 人形劇

- ・ホーボーズパペットシアター

【同時開催】

- ・市民大学講座（安曇野市教育委員会主催）10日（日）14:00～15:30

「ニュース報道の裏側」講師：テレビ信州 伊東秀一氏

【来場者数】

10月9日（土）約900名

10日（日）約600名　2日間の合計 約1,500名

(3) 準備等スケジュール

- 6月 3日（木） ・第1回実行委員会
- 6月 24日（木） ・第2回実行委員会
- 7月 7日（水） ・広報発行、出展団体申込受付開始
- 7月 29日（木） ・ポスター、チラシ原稿入稿
- 7月 30日（金） ・出展団体申込締切
- 9月 6日（月） ・広報折込（9/22発行、出展団体一覧）原稿入稿
- 9月 16日（水） ・第3回実行委員会
- 8月 22日（日） ・信州環境フェア視察
- 8月 27日（木） ・参加者連絡会
- 9月 2日（木） ・第4回実行委員会
- 9月 13日（月） ・第5回実行委員会
- 9月 22日（水） ・広報発行、出展団体一覧折込
- 10月 4日（月） ・フェア当日配布プログラム原稿入稿
・第6回実行委員会
- 10月 8日（金） ・会場準備
- 10月 9日（土） ・当日準備、本番1日目
- 10月 10日（日） ・本番2日目、閉会后撤収
- 10月 29日（金） ・反省会

(4) 印刷物等資料の作成

フェア告知用資料、当日配布資料等の印刷物を作成しました。作成した印刷物は、以下の通りでした。

- ・告知用ポスター
- ・告知用チラシ
- ・小中学校向け告知用チラシ
- ・広報原稿
- ・当日配布用プログラム
- ・アンケート（来場者向け、出展者向け）
- ・出展者名看板
- ・誘導看板
- ・受付等看板
- ・のぼり旗

(5) 助成について

(社)長野県環境保全協会中信支部様より、運営資金の一部を助成いただきました。

(6) 準備～当日の状況



パネル設置中（前日準備）



市長あいさつ（1日目）



三郷小4年3組の発表（1日目）



環境講演会（1日目）



ブースの状況（1日目）



パペットシアター（1日目）



ぱちエコセミナー (1日目)



スタンプラリー・景品引換所の状況 (1日目)



エコカルタ (2日目)



キッズダンス (2日目)



市民大学講座 (2日目)



アカゲラ巣箱づくり (2日目)



屋外ブース (2日目)



片付け (2日目)

2-6. 安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2011

(1) 開催のねらい

安曇野環境市民ネットワークでは、「安曇野市環境行動計画」（平成 22 年 3 月策定）の重点プロジェクトの一つである「環境について教え学び、取り組む仕組みづくり」の推進に向け、ネットワーク参加団体が作成した環境学習プログラムの提供や、講師等の専門家の派遣を予定しています。その第一歩として、市内の小中学校で実施されている環境学習の事例や、参加団体が提案するプログラムについて紹介することを目的として開催しました。

(2) 開催概要

【主催】安曇野市、安曇野環境市民ネットワーク

【開催日】平成 23 年 2 月 11 日（金・祝）～13 日（日）

【会場】安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」

【内容】

■ 発表：2 月 12 日（土）

【第 1 部：環境学習事例・プログラム紹介】 9:30～11:30

①堀金小学校 4 年 1 組	『拾ヶ堰探検隊～拾ヶ堰学習～』
②安曇野建築三会	『じっくりみよう学校のまわり』
③チームみさとファーム	『地域で支える教育ファーム』
④NPO 法人 信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部	『ふるさとウォッチング in 安曇野』
⑤安曇野百選プロジェクト	『安曇野百選ウォークラリー』
⑥NPO 法人 川の自然と文化研究所	『身近な自然観察活動の紹介』
⑦NPO 法人 森倶楽部 2 1	『里山を通じた環境学習』
⑧安曇野市教育会 環境部会	『市内各校の CO ₂ 排出量、ゴミの分別活動の 取り組みの状況』

【第 2 部：生物多様性意見交換会】 16:00～17:30

■ 展示：環境学習プログラム事例

【会場 1：学習室 1】

安曇野緑の会	『安曇野における特定外来植物と帰化植物の紹介』
NPO 法人 川の自然と文化研究所	『身近な川の生きものたち』
田淵行男記念館 こども自然観察教室「むしの会」	『「むしの会」の活動内容の紹介』
NPO 法人 森倶楽部 2 1	『環境学習への取り組みの写真展示』
NPO 法人 信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部	『ふるさとウォッチング等の活動概要』
安曇野百選プロジェクト	『ウォークラリー・ビューポイント等の活動概要』
安曇野市地球温暖化防止活動 推進員協議会	『協議会の活動、普及啓発活動、「うちエコ活動」 紹介』
穂高北小学校 3 年生 安曇野建築三会	『じっくりみよう学校のまわり』
穂高西中学校	『穂高西中学校の環境学習～理科・生徒会・登山の 様子から～』

【会場2：学習室2】

豊科北小学校	『学校を花でいっぱい!!』
豊科南小学校	『わたしたちの宝物～豊科南小学校ピオトープ～』
穂高北小学校 4年生	『みどりのまゆ～天蚕飼育について～』
穂高南小学校 みどりの少年団	『穂高南小学校～みどりの少年団の活動～』
穂高西小学校 5年3組	『総合的な学習の時間～環境学習の発表～』
穂高西小学校 6年2組	『学校周辺の道祖神について』
三郷小学校 4年3組	『4年3組 3大プロジェクト（エコ活動） チャレンジ！「廃油を使ったエコキャンドル作り」 「ペニ花、玉ネギの草木染め』
三郷小学校 5年生	『伝えよう！ぼくらのアイガモ農法』
堀金小学校 4年1組	『拾ヶ堰の調査について』

(3) 準備～当日の状況



パネル設置（前日準備）



展示準備（前日）



展示会場の状況



展示会場の状況



市長あいさつ



ネットワーク座長あいさつ



発表第1部（堀金小4年1組）



発表第1部会場の様子



発表第1部（安曇野市教育会）



発表第2部（開会時の状況）



発表第2部（県自然保護課の発表）



会場からの発言

3. 行動計画実施結果

3-1. 行動計画について

「安曇野市環境行動計画」（以下、「行動計画」という）は、安曇野市のよりよい環境づくりを目的として平成 20 年 3 月に策定した「安曇野市環境基本計画」（以下、基本計画という）の実現に向け、基本計画に盛り込まれた取り組みのうち、特に重点的・優先的に行う必要のある項目をまとめたものです。

基本計画は、平成 20 年度を始期として平成 29 年度を目標年度としています。行動計画は、このうちの前半にあたる平成 25 年度までに実現する項目を取り上げています。

そして、計画に従って取り組みを進めることを前提に、主体ごと、時期ごとに行うべき項目を可能な限り具体的に取り上げています。

3-2. 重点プロジェクトの一覧

行動計画では、特に重点的・優先的に行う必要のある項目を「重点プロジェクト」としてまとめました。重点プロジェクトは、以下の 11 項目です（実施計画の立案段階で重点プロジェクトのうち「市民参加による公園再生の仕組みづくり」と「水景観と歴史・文化遺産を活かしたまちづくり」が合体して「歩いて楽しいまちづくり」となったため、行動計画に記載された重点プロジェクトの数から 1 つ減っています）。

重点プロジェクトと平成 22 年度の実施内容一覧

重点プロジェクト名	平成 22 年度の実施内容	
	主体	内容
①CO ₂ 削減目標を設定する	行政	・ 排出量推計値を算出し、広報を行った（1990 年・2006 年）。 ・ 市全体の地球温暖化対策実行計画策定に向けた準備を行った
	市民	・ 各家庭の CO ₂ 排出量算出方法を選定し、試行的に算出した。
	事業者	・ 事業者の取り組み状況をホームページで確認した。
②生物多様性を維持する	行政	・ 『生物多様性技術委員会』を設置し、計 3 回開催した。 ・ レッドデータブック作成の検討を行った。
	ボランティア	・ アレチウリの駆除を行った。
③森づくりを推進する	行政	・ 森林に関する現況把握資料を整理した。 ・ 『森づくり委員会』の設置準備を行った。
	行政・事業者	・ 森林の里親事業として間伐作業等を実施した。
④緑化による環境負荷の低減	行政	・ 公共施設における緑のカーテンを実施した。 ・ 緑のカーテン推進チームを設置した。
	行政	・ 学校校庭芝生化試行の検証を行った。

（次のページにつづく）

重点プロジェクトと平成 22 年度の実施内容一覧（つづき）

重点 プロジェクト名	平成 22 年度の実施内容	
	主体	内容
⑤歩いて楽しい まちづくり	市民・事業者・行政	・「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト準備会」を設置し、基本構想を策定した。
⑥耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る	行政・JA・農業委員会・営農支援センター	・新規就農者支援として、3名について新規就農者育成支援を実施した。 ・耕作放棄地対策として、耕作放棄地の実態把握を行った。
⑦地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる	行政・JA・農業委員会等	・地元産農産物の消費拡大も目的である農業体験講座等を市内各所で開催した。 ・農産物直売所を中心に、地元農産物仕入高（売上高）調査を試行した。
	行政	・学校給食における地域食材の使用率向上について、学校給食供給体制打ち合わせ会にて検討した。
⑧豊かな地下水を保全する	行政（市民・事業者）	・地下水保全対策研究委員会を設置し、現状の把握と地下水保全条例の制定に向けた検討を開始した。
⑨ごみを減らそう	市民	・一般廃棄物処理基本計画基本案を作成した。 ・段ボール堆肥講習会を実施した。
⑩環境について教え学び、取り組む仕組みづくり	環境市民ネットワーク	・環境学習プログラムを作成した。 ・環境学習プログラムの推進について、教育委員会・学校との打ち合わせを行った。
	行政	・環境に関するテーマの公民館講座を実施した。 ・環境情報のライブラリー化として、図書館等に環境関連図書のコーナーを設置した。
	学校・教育委員会	・小中学校における環境教育を実施した。 ・環境フェア、ネットワーク・フォーラムにて成果を発表した。
⑪環境マネジメントシステムの導入	行政	・庁内への EMS の導入についての検討を行った。

3-3. 各重点プロジェクトの結果

以下、重点プロジェクトごとに平成 22 年度の取り組みの結果を示します。

【重点プロジェクト表の見方】

環境行動計画で
立てた基本事項
です。

本年度当初に立
てた計画とその
結果です。
結果はランク※
として記号で示
します。

※ランク
達成度別に A～E の
5 段階で評価しまし
た。記号は達成度の
めやすを示します。
A：目標達成
B：75%程度達成
C：50%程度達成
D：25%程度達成
E：ほぼ未着手
－：判定不能
割合の数字はおおよ
そのめやすです。

本年度の総括と
次年度に向けた
留意事項等の整
理結果です。
実績評価はラン
ク※として記号
で示します。

《1》 CO₂削減目標を設定する

■このプロジェクトの基本事項

目的	・省エネルギーの促進と新エネルギーの導入を促進し、CO ₂ 排出量を削減する。	
方向性	・CO ₂ 排出量の実態把握 ・CO ₂ 削減目標の設定 ・削減目標を実現するための具体的な行動計画の策定と実施	
目標	時期	内容
	H22 年度	・1990 年および 2006 年の推計値を把握する。
	H23 年度中	・CO ₂ 削減目標を設定する(安曇野市全体として、何年度までに何%の削減を目指すかを決定し、行政・事業者・市民それぞれがどの位の削減を受け持つのかを決定)。

■平成 22 年度の計画および結果

実施計画			結果								
主体	内容	時期									
行政 (生活環境課)	・推計基礎算出(1990 年、2006 年) ・基礎数値精査 ・推計値算出(1990 年、2006 年) ・議会へ報告、HP・広報へ掲載 ・「安曇野市地球温暖化対策実行計画」策定方法の素案作成 ・「安曇野市地球温暖化対策実行計画」策定に向けての組織検討	4 月	A：4月に算出した。 A：5月に精査した。 A：6月に算出した。 A：10月に報告、掲載した。 A：H23 年度からの策定作業 に向け、素案を作成した。 A：H23 年度からの策定作業 に向け、組織の検討を行っ た。								
		5 月									
		6 月									
		9 月									
		11 月									
市民	・各家庭からの CO ₂ 排出量算出のため の方法検討 ・推進会議 WG 委員によるモデル的な 算出	7 月	A：他市の事例を参考に、算 出方法を選定した。 A：選定した方法に基づき、 試行的に算出した。								
		9 月									
事業者	・各事業者による CO ₂ 排出量削減の取 り組みの継続	通年	A：市内の主な事業者 50 社 のホームページ等を調査し たところ以下のような状況 であり、おおよそ 7 割の事 業者が EMS 等で CO ₂ 排出 量削減に取り組んでいた。								
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">環境マネジメントシステム (EMS) 取得事業者</th> <th rowspan="2">EMS の取得はしていない が環境方針等を掲載</th> </tr> <tr> <th>ISO14001</th> <th>エコアクション 21</th> </tr> <tr> <td>22 社</td> <td>7 社</td> <td>5 社</td> </tr> </table>			環境マネジメントシステム (EMS) 取得事業者		EMS の取得はしていない が環境方針等を掲載	ISO14001	エコアクション 21	22 社	7 社	5 社	
環境マネジメントシステム (EMS) 取得事業者		EMS の取得はしていない が環境方針等を掲載									
ISO14001	エコアクション 21										
22 社	7 社	5 社									

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の 実績評価	ランク※：A ・概ね計画通り実施した。
次年度への 展望と課題	・CO ₂ 削減目標値を設定する。 ・「安曇野市地球温暖化対策実行計画」の策定に着手する。 ・各家庭での CO ₂ 排出量を削減するために、CO ₂ 排出量算出・削減方法を検討し、紹介していく取り組みを行う。 ・事業者による CO ₂ 排出量の削減の取り組みについて、ホームページ等で公表している事業者については把握が容易だが、公表していない事業者については把握が難しい。そのため、そういった事業者についての把握方法を検討する。 ・CO ₂ 排出量の削減等環境活動に先駆的に取り組んでいる市内事業者について、調査し、市の広報等で紹介していく取り組みを行う。

《1》 CO₂削減目標を設定する

■このプロジェクトの基本事項

目的	・ 省エネルギーの促進と新エネルギーの導入を促進し、CO ₂ 排出量を削減する。	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ CO₂排出量の実態把握 ・ CO₂削減目標の設定 ・ 削減目標を実現するための具体的な行動計画の策定と実施 	
目標	時期	内容
	H22年度	・ 1990年および2006年の推計値を把握する。
	H23年度中	・ CO ₂ 削減目標を設定する(安曇野市全体として、何年度までに何%の削減を目指すかを決定し、行政・事業者・市民それぞれがどの位の削減を受け持つのかを決定)。

■平成22年度の計画および結果

実施計画			結果			
主体	内容	時期				
行政 (生活環境課)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推計基礎算出(1990年、2006年) ・ 基礎数値精査 ・ 推計値算出(1990年、2006年) ・ 議会へ報告、HP・広報へ掲載 ・ 「安曇野市地球温暖化対策実行計画」策定方法の素案作成 ・ 「安曇野市地球温暖化対策実行計画」策定に向けての組織検討 	4月 5月 6月 9月 11月 H23年 2月	A: 4月に算出した。 A: 5月に精査した。 A: 6月に算出した。 A: 10月に報告、掲載した。 A: H23年度からの策定作業に向け、素案を作成した。 A: H23年度からの策定作業に向け、組織の検討を行った。			
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各家庭からのCO₂排出量算出のための方法検討 ・ 推進会議WG委員によるモデル的な算出 	7月 9月	A: 他市の事例を参考に、算出方法を選定した。 A: 選定した方法に基づき、試行的に算出した。			
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業者によるCO₂排出量削減の取り組みの継続 	通年	A: 市内の主な事業者50社のホームページ等を調査したところ以下のような状況であり、おおよそ7割の事業者がEMS等でCO ₂ 排出量削減に取り組んでいた。			
				環境マネジメントシステム(EMS)取得事業者		EMSの取得はしていないが環境方針等を掲載
				ISO14001	エコアクション21	
				22社	7社	

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク*: A ・ 概ね計画通り実施した。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ CO₂削減目標値を設定する。 ・ 「安曇野市地球温暖化対策実行計画」の策定に着手する。 ・ 各家庭でのCO₂排出量を削減するために、CO₂排出量算出・削減方法を検討し、紹介していく取り組みを行う。 ・ 事業者によるCO₂排出量の削減の取り組みについて、ホームページ等で公表している事業者については把握が容易だが、公表していない事業者については把握が難しい。そのため、そういった事業者についての把握方法を検討する。 ・ CO₂排出量の削減等環境活動に先駆的に取り組んでいる市内事業者について、調査し、市の広報等で紹介していく取り組みを行う。

《2》 生物多様性を維持する

■このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と共生する社会の構築 ・ 生物情報の整備と生物に配慮した施策の実施 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野市の生物情報を整備し、環境計画や都市整備等の施策に反映することを目指す ・ 外来種対策の具体的な方向性を示す 	
目標	時期	内容
	H23 年度中	・ 安曇野市の生物情報をとりまとめる
	H24 年度	・ 身近な生き物調査（または類似の調査）を実施し、過年度と比較・評価を行う
	H25 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野市生物情報報告書と安曇野市版レッドデータブックの刊行 ・ 外来種対策の効果測定（対策実施前との比較）

■平成 22 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (生活環境課)	<ul style="list-style-type: none"> ●「生物多様性技術委員会」(仮称)の設置 「生物多様性技術委員会」(仮称)準備会合の開催 ・ これまでの調査結果報告 ・ 現地補足調査実施計画 ・ 委員会での検討内容および方向性確認 	7月下旬	A:平成22年7月29日に生物多様性準備委員会を開催した。
	現地補足調査 →実施場所、内容は上記委員会の結果による	9~10月	A:10月中旬に現地補足調査を明科で実施した。
	「生物多様性技術委員会」(仮称)第1回の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地補足調査結果報告 ・ 今後検討すべき項目について確認 	10月中旬	A:平成22年12月2日に第1回生物多様性技術委員会を開催した。
	本年度の生物情報収集・整理結果とりまとめ	H23年3月	A:平成23年3月8日に第2回生物多様性技術委員会を開催した。
ボランティア (市民・事業者・行政職員)	<ul style="list-style-type: none"> ●外来種対策 ・ ボランティア(市民団体、事業者および行政職員)による外来植物の駆除活動 	6~8月	A:6~8月にかけてボランティアによるアレチウリ駆除等を12回実施した(参加者延べ200名/約500kg)。

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク*: A <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者の協力があり概ね計画通りに達成した。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野市の生物情報取りまとめを目指す。なお、外来種対策については個々を見渡す総合的な視点を詰めていく必要がある。

《3》 森づくりを推進する

■このプロジェクトの基本事項

目的	・ 森林の持つ公益的機能（CO ₂ 排出抑制、水源かん養や山地災害防止など）の発揮や自然とのふれあいを重視した森林・里山の整備・保全を目指す	
方向性	・ 安曇野市の森づくりの方向性を打ち出す ・ 森づくり基本方針（森づくり構想、森づくり条例、森づくり基本計画）の策定 ・ 安曇野市森林整備計画（平成 18 年～平成 28 年）の推進	
目標	時期	内容
	H23 年度	・ 森づくり委員会の設置
	H24 年度末	・ 森づくり基本方針（森づくり構想、森づくり条例、森づくり基本計画）の策定

■平成 22 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 （耕地林務課）	・ 森林に関する現況把握資料の整理	8 月下旬 （推進会議）	A：森林に関する現況把握資料を整理した。
推進会議 （自然 WG）	・ 「森づくり委員会」（仮称）素案作成	8 月下旬	A：「森づくり委員会」素案を作成した。
行政 （耕地林務課）	・ 「森づくり委員会」平成 23 年度予算獲得のための資料づくり	第 3 回幹事会 （10/19）	A：「森づくり委員会」平成 23 年度予算確保
//	・ 「森づくり委員会」の素案検討	H23 年 1 月上旬	A：「森づくり委員会」素案・構成内容確認
//	・ 「森づくり委員会」の構成内容確認	3 月上旬	
行政・事業者	・ 森林の里親事業 （企業と行政の契約に基づく森づくり）	通年	A：県と市と市内の企業の 3 者契約により、社員と市県職員とで森林の間伐作業等を実施した。

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク※：A ・ 関係者の協力により計画に沿って達成した。
次年度への展望と課題	・ 森づくり委員会を設置し基本方針の策定に着手する。なお、森づくり条例の制定について検討・審議する。また、2011 年の国際森林年との対応・連携等について検討する。

《4》 緑化による環境負荷の低減

■このプロジェクトの基本事項

目的	・身近な緑化を通じて、快適環境の整備だけでなく、地球温暖化防止、CO ₂ 削減などの環境負荷低減を行う。	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にあった緑化策（緑のカーテン、生け垣、屋敷林など）の検討と普及 ・公共施設への省エネルギーと環境負荷低減効果のある緑化策の採用 ・学校校庭の芝生化推進（試行と検証、改善等を経て、市内の小中学校校庭の芝生化を順次進める） 	
目標	時期	内容
	H23年度	・公共施設における緑化策として、「緑のカーテン」を支所等で実施し、その効果を測定し課題を検証する。
	H24年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のカーテンのマニュアルを使った、市民向け講習会を公民館講座等で実施する ・環境負荷低減の効果のある緑化策を市民事業者を紹介するガイドブック等を作成し、配布する ・市内の小中学校校庭の芝生化について、実施する学校を確定させる

■平成22年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 （緑のカーテン 実施施設関係 課、生活環境 課等15課）	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設における緑のカーテンの試行準備 ・公共施設における緑のカーテンの試行 	4月～ 6月～	A：ゴーヤを中心に種まきをした。 A：11ヶ所で試行実施した。 （本庁1、豊科総合支所1、穂高総合支所2、三郷総合支所2、堀金総合支所1、明科総合支所：2、健康支援センター1、西穂高保育園1）
行政 （社会教育課）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校校庭芝生化試行の検証（三郷小、三郷地域の4つの保育園は、既に芝生あり） 	H23年 2月	A：H21年に植栽した穂高西小校庭中央部及び北側を管理・検証した。現在の所、順調な生育であった。
行政 （生活環境課） ・市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ●緑のカーテン推進チームの設置（市職員有志、市民団体、事業者） ・緑のカーテン試行に対する検証と、来年度へむけての緑のカーテン推進計画 ・来年度の緑のカーテン推進準備 	～H23年 2月 H23年 3月	A：市職員有志で、H22年度実施内容の改善点を整理した（3/9）。 B：市民団体：NPO法人あづみ野風土舎と来年度へむけての打合せをした。事業者との打合せはできず。

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク※：A <ul style="list-style-type: none"> ・緑のカーテン試行については、ゴーヤの苗おこしが予想以上に時間がかかり、スタートが遅れたのと、猛暑のため生育にばらつきがあり、葉の密集度が低い所があった。 ・校庭の芝生化については、今春で2回目の芽吹きを迎えるがほぼ順調
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のカーテンは、昨年度の改善点を整理し、葉が密に繁茂するよう工夫が必要。 ・緑のカーテンの普及を図っているあづみ野風土舎との連携、その他協力体制がとれそうな任意団体への協力要請を検討。 ・緑のカーテンのマニュアル作成 ・穂高西小の校庭芝生化の最終年となるため、検証結果をまとめる。また穂高西小以外で新たに芝生化実施を希望する学校を検討。

《5》 歩いて楽しいまちづくり

■このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> 地域の住民が水景観や歴史文化遺産等の魅力を再発見し、その魅力をさらに高めることにより地域の活性化を図る（観光が主目的としてのスタートではなく、地域の活性化を図り、最終的に観光資源へ発展するように） 活用されていない公園を、地域住民がふれあい、地域の活力を高める場として再生する。 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> 自動車を使わず歩いて回れるまちづくりの推進 水景観や歴史・文化遺産などの保全と活用 上記の地域資源を結びつける遊歩道、自転車道のネットワーク化 地域住民が参加する公園再生の仕組みづくり（公園の再生計画、施工、管理など可能な範囲で地域住民が参加し、地域住民のニーズが反映された公園再生を行政とともに協働で進める） 	
目標	時期	内容
	H23年度	<ul style="list-style-type: none"> 整備地区の設定 整備モデル地区での整備計画と実施
	H24年度	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングイベントの開催 公園再生の体制づくりと具体的な計画立案
	H25年度	<ul style="list-style-type: none"> 整備モデル地区の検証と他地域の整備計画の策定 ウォーキングイベントの開催 観光客の滞在時間増加

■平成22年度のおよび結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政（ブランド推進室、生活環境課、観光課）・市民（環境市民ネットワーク加盟 関連団体等）・事業者（観光協会、ペンション協議会等）	<ul style="list-style-type: none"> ●基本調査及び基本構想策定とプロジェクトチーム設置 ・関連する行政部署、市民（団体）、事業者等のメンバーにより、プロジェクトチームを設置する。合わせて、基本構想のデータを収集するとともに具体的な計画案を作成する 	通年	A：関連する行政部署、市民団体、事業者等で組織した「歩いて楽しいまちづくりPJ準備会」を設置。現地踏査（穂高・豊科）2回、検討会議7回実施した。その成果として「安曇野フィールドミュージアム構想」を取りまとめた。

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク※：A</p> <p>・「歩いて楽しいまちづくりPJ準備会」を設置。その後、安曇野ブランドデザイン会議と連携を図り「安曇野フィールドミュージアム構想」の取りまとめを行った。</p> <p>またその中で整備地区として市内Ⅰ～Ⅴ地区を選定（Ⅰ：水景観を中心に豊科から穂高にかけてのわさび畑と湧水地帯周辺 Ⅱ：穂高駅周辺の歴史・文化と町並み景観を中心に Ⅲ：有明山麓特産の天蚕と小岩嶽城址等史跡を中心に Ⅳ：拾ヶ堰を中心とした開発の歴史と堀金・三郷地区の田園・集落の風景 Ⅴ：光城山―長峰山からの眺望と明科廃線敷）うちⅠ地区の南側、万水川・わさび畑周辺の湧水地帯については、現地踏査等を実施した。</p>
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、H23年度は前半にモデル地区の整備計画、後半その計画実施となっていたが、整備後の持続可能な管理組織の重要性を鑑み、H23年度いっぱいをかけ、整備計画及び管理組織の基盤づくりを行い、本格的な整備実施をH24年度からとする。 ・モデル地区においては、実施後の評価はもちろんのこと、整備計画から整備実施にいたる過程をまとめ（プランニングシステム）、以後の他地域における整備でも参考となるよう、報告書を刊行する。（H24年度刊行） ・他の整備地区に関しても、様々な分野を考慮した提案をまとめ、順次実施段階へと進める。 ・市内の公園について、活用状況等の調査を進める。

《6》 耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る

■このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野の特徴的な環境である田園風景を守る ・安曇野の農業に対する魅力を高め、農業従事者や地域が意欲的に農業を続けていくことのできるような環境整備を進める ・農業従事者がいないために農地が荒廃し、耕作放棄地化するのを防ぐ 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・農地情報の一元管理と利用希望者への提供 ・意欲のある農業従事者への農地利用を促進と新規就農者の受入れ推進 ・耕作放棄地解消のための耕作放棄地での耕作などの活動に市民が参加 	
目標	時期	内容
	H22年度～	<ul style="list-style-type: none"> ・営農支援センターを中心に、新規就農者の育成支援制度の適用を開始する（毎年3名を目標）
	H25年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・H22年度から開始した育成支援の結果、新たに3人の就農者が自立する ・耕作放棄地を減らす

■平成22年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政（農政課） ・JA・農業委員会・市営農支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ●新規就農者支援事業（生活支援金支給事業） ・育成支援方法の検討及び事業の取り組み準備 ・市営農支援センターにて計画承認を得るとともに、育成支援の方法を検討 ・対象者の公募、申込受付～決定～補助金交付 ・対象者への農地情報の提供、営農指導等 ・対象者から営農支援センターへの実績報告 	4月～ 5月～ 7月～ 通年 H23年3月	A：計画3名に対し、事業対象者実績3名なので100%とした。 A 対象者へは、農地情報提供や営農指導が実施され、実績報告もされた。 A A
行政（農政課） ・JA・農業委員会・市営農支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ●耕作放棄地対策 ・農業委員会との連携による調査準備 ・現地調査実施（集計～まとめ～公表） ・耕作放棄地や耕作のできなくなる土地の情報提供 ・耕作放棄地解消に向けた事業の実施（市・市営農支援センター） 	4月～ 8月～ 通年 通年	A：実施した。 B：調査・集計を実施した。公表については個人情報の問題があるため、その公表方法について次年度以降の検討必要。 C：窓口が不十分だったため、一般市民へ周知足りなかった。H23年度よりJAが相談窓口を設置することになった。 B：市としての取り組み内容を評価（国及び市の補助金内容：堆肥投入、草刈り機購入等）。
市民・事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地等に係る情報を市へ提供 	通年	C：隣地や通学路等に障害が出た場合の通報はあるが、一般的にはほとんどないのが現状。

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク※：B <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者支援事業自体はA評価できるが、耕作放棄地解消という全体的な観点からすると、行政やJAの努力はわかるが、B評価となる。 ・水田はまだ問題が少ないが、畑作地帯での貸し借りによる解消は難しい状況である。 ・行政やJAの努力だけでは、難しい部分がある。農地も個人財産であるので、貸し借りの条件等も難しくなっている。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者支援事業は、今後も続けていき、新たな担い手ができること期待する。 ・更なる耕作放棄地対策の充実が望まれる。 ・Uターン、Jターン者への支援も必要だが、Uターンした人への支援も検討が必要になってくる。 ・兼業農家や退職組の就農者等への支援対策の充実が必要。

《7》 地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる

■このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野の農業を活性化する ・農業者や地域が意欲的に農業を続けていくことができるようにする 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・より適正な価格で販売することを視野に入れ、地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる ・「農業体験講座等」の拡充 ・農薬、除草剤、化学肥料の使用を削減とこれらに頼らない農業の実践 	
目標	時期	内容
	H23 年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・「農業体験講座等」等を各地域で開催する。 ・安曇野産農産物の使用率を把握する方法を検討する。
	H25 年度末	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野産農産物の使用率を把握し、地産地消の拡大を確認する。

■平成 22 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政（農政課）・JA・農業委員会等	<p>●地元農産物消費拡大事業</p> <p>各家庭で食物の栽培を体験し、食への関心を高めていただくとともに、収穫した野菜を使った調理方法も学び、地産地消の家庭での実践を行ってもらう</p> <p>また、農業体験講座等を増やし、播種から収穫までの一連の作業や作物の加工体験を行い、農業に対する理解と交流の促進に取り組む</p>	通年	B：市及び各団体において実施されているが、市民ニーズを把握しきれているかは調査が必要。

[今年度の実施した主な講座等は下記のとおり]

実施主体	事業名	場 所	実施期間	回数	参加人数/回	延べ参加人数
コープながの、JAあづみ	国際協力田植体験	堀金烏川	5月	1	10 家族	36 名
コープながの、JAあづみ	ふれあい農園	堀金烏川	4月～11月	14	17 家族	433 名
あづみ野農業塾	あづみ野農業塾	豊科高家	4月～3月	12	70	840 名
堀金公民館	農業体験講座スイカ塾	堀金	4月～8月	6	8	48 名
市農政課	やすらぎ農場 ふれあいセミナー	三郷温	5月～3月	10	27	270 名
市農政課	親子地産地消費農業 体験事業	穂高有明	5月～11月	20	27	540 名
穂高地域営農支援センター	土曜農業塾	穂高有明	2月～11月	33	11	344 名
堀金地域営農支援センター	烏川体験農場	堀金烏川	2月～1月	20	10	200 名
堀金地域営農支援センター	三田体験農場	堀金三田	4月～3月	35	15	525 名
明科地域営農支援センター	明科農業塾	明科東川手他	3月～12月	28	10	280 名
合 計	10 箇所	—	—	179	—	3,516 名

	<p>●地元農産物使用割合把握方法検討</p> <p>農産物直売所（10 施設）を中心に、地元農産物仕入高（売上高）調査を試行</p>	通年	A：H22 年 4 月からデータ収集を開始、年度の集計は H23 年 5 月末予定。
行政（学校給食課）・JA・農業委員会・農家団体等	<p>●学校給食における地域食材の使用率を向上させる</p> <p>学校給食供給体制打合会にて検討</p> <p>学校給食の地元食材使用実績データを基に、今後の農産物等の供給体制の方向を見極める</p>	6月～H23年3月	B：食育に関する取り組みがきめ細かく実施されているが、さらに使用率を向上させるための施策が必要である。

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク※：B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験セミナー等は、計画どおり実施できた。 ・学校給食における地域食材使用率向上は、「食育に関する取り組み」ということで、集中的に取り組みが行われてきている。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験セミナーへの参加人数の増加を、関係団体と連携を取りながら図っていくことが必要となる。 ・地元農産物使用割合等、数値的に表現できるような検討が必要となる。 ・また学校給食での地域食材使用率も同様。 ・地元産は、コメとリンゴが主なものである。今後は3番目の品種を開発していく必要がある。

《8》 豊かな地下水を保全する

■このプロジェクトの基本事項

目的	・どこでどのくらいの地下水を利用しているかを把握し、地下水利用のルールをつくる。	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水利用の現状を把握 ・地下水保全方策の検討と地下水保全条例の制定 ・地下水利用基本方針の策定 	
目標	時期	内容
	H23 年度中	・地下水利用実態に基づき、地下水保全条例を制定する

■平成 22 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (生活環境課) →委員会の主催	・条例制定に向けた研究組織設置に向けての事務局検討と学識経験者との打合せの実施	4～5月	A：4～5月に実施した。
市民・事業者 →委員会への参加	・行政経営会議及び市水資源対策協議会にて、研究委員会組織設置についての承認を得る	5～6月	A：5～6月に承認を得た。
	【研究委員会の予定】 第1回研究委員会 ・委員委嘱 ・地下水の現状について	7月	A：7月26日に市内の地下水の現状について分析をした。
	第2回研究委員会 ・地下水保全に係る先進地取り組み事例について	9月	A：9月30日に県内外の地下水保全に取り組んでいる自治体について研究した。
	第3回研究委員会 ・かん養事業の取り組みについて	11月	A：11月25日にかん養事業について研究した。 また、試験的に市内5箇所について冬水田んぼを実施した。
	第4回研究委員会 ・節水や地下水の再利用について	H23年 1月	A：1月27日に市内の事業者の地下水の利用・節水・リサイクル等の状況について研究した。
	第5回研究委員会 ・かん養事業のための協力金について	3月	A：3月4日にかん養事業・地下水の将来予測等の研究を行った。

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク※：A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施した。 ・現状の把握等、研究が進んでいる。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水保全対策指針の策定をする。 目標ではH23年度中に地下水保全条例を制定することとなっていたが、研究委員会での意見・進捗状況等により、条例の制定はH24年度中とした。 ・地下水保全対策指針を策定するにあたり、地下水のかん養、協力金等実効性のあるものを策定する。

《9》 ごみを減らそう

■このプロジェクトの基本事項

目的	・可燃ごみの約4割を占める生ごみの減量は、処理するごみの総量の削減に大きな効果があるので、具体的な方策を検討・実現する	
方向性	・家庭で出来る堆肥化の促進 ・事業系における有効な手段の検討	
目標	時期	内容
	H22 年度中	・家庭系生ごみ処理の対策を研究する。
	H23 年度中	・廃棄物対策課を中心に、事業系生ごみ処理の対策を検討する組織を設置する。 ・家庭系生ごみ処理（検討された対策）を実施する。

■平成 22 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (廃棄物 対策課)	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物処理基本計画に向けた生ごみ処理についてのアンケート調査の実施 一般廃棄物処理基本計画基本案作成 一般廃棄物処理基本計画について環境基本計画推進会議への意見聴取 段ボール堆肥講習会の実施 一般廃棄物処理基本計画具体案作成 一般廃棄物処理基本計画について環境審議会への意見聴取 一般廃棄物処理基本計画の策定・告示 	7月	A：7～8月に実施した。
		9月	A：9月に作成した。
		10月	A：10月に実施した。
		10月	A：H23年3月に実施した。 約20人参加。この他に、広報あづみの、家庭ごみ・資源物出し方（H23年度版）に作り方を掲載した。
		12月 H23年 1月 3月	A：H23年1月に作成した。 A：H23年1月に実施した。 B：計画案は作成したが、環境審議会への意見聴取の再実施（H23年4月予定）、パブリックコメントの実施（H23年5月）等により、年度内の策定・告示が出来ないため。 H23年7月策定・告示予定。
市民	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物処理基本計画基本案作成への協力 一般廃棄物処理基本計画具体案作成への協力 段ボール堆肥講習会への協力（講師派遣） 段ボール堆肥講習会の実施 	7月	A：7月に協力した。
		9月	A：H23年1月に協力した。
		10月	A：H23年3月に協力した。
		11月、 H23年 1月	A：9月に1回、10月に2回、 H23年1月に1回実施した。 全体で約50人参加。
		7月 9月	A：7月に協力した。 A：H23年2月に協力した。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物処理基本計画基本案作成への協力 一般廃棄物処理基本計画具体案作成への協力 	7月	A：7月に協力した。
		9月	A：H23年2月に協力した。

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク※：B</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね計画通り実施した。 家庭系生ごみの減量策で研究が出来たのは、段ボール堆肥・ボカシであり、その他の有効な方法の研究はできなかった。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> 家庭系生ごみの減量策について、段ボール堆肥等の研究を進めたが、それ以外の方策も含めて、今後も研究・検討を続ける必要がある。 ごみの減量について、確実な結果の出るような行動計画を策定し、ごみの減量に繋がる具体的な施策を研究・実施していく必要がある。 これらの評価の仕方についても検討する必要がある。

《10》 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり

■このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習会や講座などを通し、環境保全への関心を高め、理解を深めて、様々な環境保全のための活動に参加する ・ 市民、事業者、行政が連携を図りながら、環境保全事業の実施、情報発信等の体制基盤をつくる 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境教育に取り組む人材の育成 ・ 環境に関する情報の蓄積と提供 ・ 環境に関する学習機会の提供 	
目標	時期	内容
	H23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野環境市民ネットワーク主体の環境学習開始 ・ 環境情報の整備とライブラリー化の開始
	H24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安曇野環境インストラクター制度の開始
	H25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境情報の整備とライブラリー化の完了

■平成 22 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (一部、安曇野環境市民ネットワーク協力)	●環境に関連する公民館講座等実施	夏・冬期 7月 10月 通年 7月	A：各地域公民館で実施した。 ・スターウォッチング【豊科】 ・不思議発見！木のうえ、地のなか、水のなか 烏川溪谷緑地周辺を体験しよう！【穂高】 ・プチエコ講座と景観ウォークラリー【三郷文化産業展】 ・耕作放棄地を活用した農業教室【堀金】 ・長峰山自然観察会【明科】
行政	●環境情報のライブラリー化の検討	通年	A：図書館等に生物多様性コーナーを設置し、環境関連図書を購入した。市 HP に環境関連調査掲載した。
学校、市教委（地域・安曇野環境市民ネットワーク等協力）	●市内小中学校における環境学習等の実施	通年	A：市内全小中学校で、環境活動・教育・学習を実施した。環境フェア、フォーラムで成果を発表した。
安曇野環境市民ネットワーク等・学校・市民・事業者・行政	●環境学習の現状と課題抽出 ・環境市民ネットワークに環境学習推進チーム（仮称）を設置 ・環境学習のあり方、進め方について検討するとともに、教育委員会との連携をとりながら推進する	10月9～10日 2月11～13日 H23年2月	A：「あづみ野環境フェア 2010」出展 71 団体 「フォーラム 2011～環境学習プログラムの推進に向けて～」環境学習事例・プログラム発表 9 団体・展示 17 団体 A：環境市民ネットワーク環境学習プログラムを作成し、市内小中学校、公民館に配布した。教育委員会・学校と推進について打合せた。

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク※：A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館、市内小中学校へ、来年度以降の環境学習推進に向けてのプログラムを提供。 ・ 教育委員会及び市内小中学校と今後の環境学習推進について、合意が図れた。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校現場での環境学習推進について、教育委員会、学校、学校支援ボランティア、安曇野環境市民ネットワークの連携を図りながら、推進体制を構築する。 ・ 環境学習を公民館、学校を中心に推進するにあたり、事業者の協力も、今後重要となってくる。よってその仕組みづくりを行う。 ・ 環境インストラクター制度の検討。

《11》 環境マネジメントシステムの導入

■このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内業務の環境負荷低減および定めた目標の確実な実行 ・ 市内事業者のEMSの導入による環境負荷の低減 	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内業務へのEMS導入 ・ 市内事業者へのEMS導入支援 	
目標	時期	内容
	H23年度	・ 庁内業務へのEMS導入の可否を決定
	H24年度	・ 市内事業者が導入しやすい安曇野版EMSの検討開始
	H25年度	・ 市内事業者が導入しやすい安曇野版EMSの原案完成

■平成22年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (生活環境課)	・ 生活環境課、総務課及び関係各課との打ち合わせ	9月以降	C：生活環境課、総務課及び関係各課と打合せを実施した。 本庁舎建設後はEMS導入を積極的に導入する。 現状は分庁方式のためEMS導入について結論には至らなかった。 C：EMS導入に向けた方向性が定まらなかったが、検討に向けた資料収集等準備を行ってきた。
	・ EMS導入に向けた資料収集及び平成23年度の検討に向けた準備	12月以降	

■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク※：C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内事業者の環境マネジメントシステムの取組状況を調査した（詳細P.19）。また、庁内における地球温暖化防止実行計画の推進に重点を置いて取り組んだ。環境マネジメントシステムの導入検討については、打合せを実施したが、その方向性について結論に至らなかった。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内業務における環境マネジメントシステムの導入は行政が主体となるため、今後の進め方についてはその方向性が明らかになった時点で、推進会議の環境マネジメントシステムワーキンググループにおいて支援するものとする。なお、ISO14001を代表とする現存する環境マネジメントシステムの動向についてはその都度状況を確認する。

4. 次年度へ向けて

4-1. 市全体のテーマの進行

(1) 年次テーマ「安曇野の水を知り、守り、育む」

関連する重点プロジェクトを着実に推進するとともに、環境フェア等のイベントや広報等を通じた普及啓発を積極的に行います。

① 関連する重点プロジェクト

- ・ 歩いて楽しいまちづくり
- ・ 豊かな地下水を保全する
- ・ 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり

② イベント等でのテーマ設定

- ・ あづみ野環境フェア 2011（仮称）でのテーマ設定
- ・ 安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 等

③ 広報等での普及啓発

- ・ 年間を通じた連載記事の掲載
- ・ ウェブページの活用 等

(2) 長期テーマ「地球温暖化防止にみんなで取り組む」

上記年次テーマと同様の展開を図ります。

4-2. 重点プロジェクトの推進

重点プロジェクトについては、前項に示した平成 22 年度の結果と環境行動計画に基づき、次年度の実施計画を立案して推進します。現時点での各重点プロジェクトの状況について、巻末の資料に示しました。具体的な内容は、次年度当初に策定する「平成 23 年度実施計画」にて示す予定です。

4-3. その他、推進会議委員からの意見等

(1) 平成 22 年度の検討を通じて

- ・ 推進会議、WG での検討を通じて、たくさんのことが勉強できた。このようなことに関わっていくことが大事だと感じた。
- ・ これまで検討してきたことが、一つひとつ形になってきているのを実感している。
- ・ これまで携わってきている人たちだけでなく、新たに関わることになった人も進めることのできる仕組みがそろそろ必要。

- ・ 基本計画策定時に考えてきたことが、絵に描いた餅にならずに形になってきていることを実感している。
- ・ 小さな種から芽が出て、少しずつ大きくなってきているという段階。この活動を続けて、発展につながればと思う。

(2) 重点プロジェクトについて

- ・ 行政の協力を得て、概ね順調に進んだ。
- ・ 行政の動きは把握しやすいが、市民や事業者の取り組みは把握する手段が少ない。それらの人たちの声を取り組みにどう反映させるかが課題。
- ・ 検討を重ね、プロジェクト推進のための予算もついた。行政に動いてもらう上で、いかに予算をつけてもらうかが重要なことだと感じた。
- ・ 緑化は一般市民にも参加してもらいやすいので、環境について取り組むきっかけとしていきたい。
- ・ 緑のカーテンをやってみたが、枯れた後の後始末が大変だった。市民の皆さんに気持ちよく取り組んでもらえるように、その後の片付けも含めて仕組みを整える必要がある。
- ・ 市民との協働としながら、実際は1つの団体とのコラボレーションというケースもあり、市民との協働と言えるのか疑問な部分もある。もっと多くの団体が参加できる仕組みが必要。
- ・ 一般のごみ減量については検討が進みつつあるが、事業系のごみについてはあまり取り上げられていない。大きな事業者も増えてきており、事業系ごみの対策が必要だ。
- ・ 農業者やJAとの協議の場も必要だ。
- ・ 行政は縦割りだと言われる中、横の連携を深められるよう取り組みたい。
- ・ 庁内の理解をいかに深めていくかが課題。環境がやっていることは理想論だと言われないう、環境があって財政がどうかくらいに考え方を変えていく必要がある。

(3) イベント等の開催を通じて

- ・ いろいろな活動をする団体との輪が広がっていくのを感じた。この取り組みを継続したい。
- ・ 環境フェア、フォーラムと子どもたちの発表の機会をつくったが、訴える力があつた。ネットワークが子どもたちの取り組みをサポートできる存在になると良い。

(4) 他の推進体制との関係について

- ・ 推進会議として、安曇野環境市民ネットワークを活性化していく必要がある。
- ・ 小学校で実施した環境学習プログラムが高い評価を得た。このような取り組みをさらに発展させたい。

(5) 普及啓発に関すること

- ・ 一般市民に広く周知して、一人でも多くの人に取り組んでもらうことが必要。そのための簡単なチラシの作成なども考えてはどうか。
- ・ 情報発信の窓口である「あづみ野エコプラン.net」を定期的に更新し、内容を充実させていく必要がある。
- ・ 仕事柄個人の庭に関わることもあるが、つるの片付けなど手間のかかることはやりたがらない人もいる。そのような人たちをどう巻き込んでいくかが大事だ。
- ・ 地球環境問題は難しい言葉が多い。もう少しかみ砕いて、わかりやすく示していくことも必要だ。
- ・ 一般市民には十分浸透していない部分も感じる。情報発信を充実させて、市民に伝える形をより整えていきたい。

(6) 推進会議の運営について

- ・ 平日昼間の会議では、普通に仕事をしている人は参加できない。そういう人たちの声を聞くためにも、会議のありかたを考える必要がある。
- ・ 本来の仕事や生活で忙しい中で、無理なくできるやり方を考える必要がある。
- ・ 各WGがそれぞれの分野でがんばっていることに、心からありがとうと言いたい。
- ・ いろいろな立場の人が来ているので、環境についてざっくばらんに話し合う機会があると良い。いろいろな声をどれだけ拾えているかが課題だ。

(7) 市全体のテーマについて

- ・ 来年のテーマを「水」に設定した。市全体でみんなが参加できる何かをできると良い。
- ・ テーマが決まったので、様々な組織と連携して市全体として取り組めると良い。

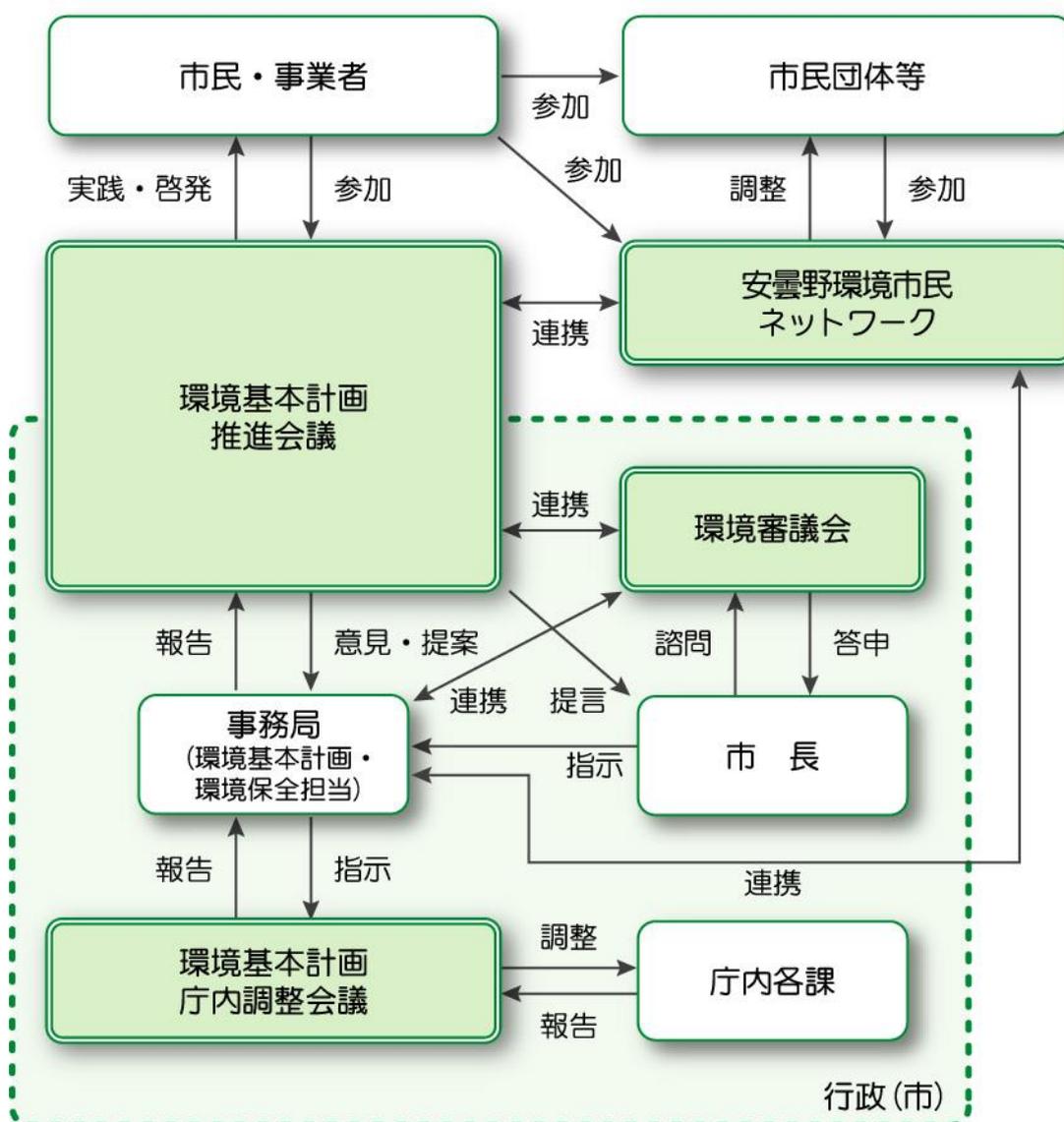
参考：環境基本計画の推進体制と進行管理

【推進体制】

環境基本計画は、市民・事業者・行政、その他関係する組織・団体など、さまざまな主体の各自の取り組みと、相互の連携や協働によって推進する必要があります。

環境基本計画を受けて策定した環境行動計画において定めた推進体制を、下の図に示しました。中核となるのは、市民・事業者・行政を含めた組織である「環境基本計画推進会議」であり、市全体としての計画の進捗状況の把握、課題点および対応策の検討などを行う機能です。このほか、行政内部の調整組織である「環境基本計画庁内調整会議」、専門的な見地から計画の達成・進捗状況を点検・評価する「環境審議会」のそれぞれが連携して計画の推進をはかります。

また、平成21年9月に発足した「安曇野環境市民ネットワーク」も、さまざまな市民団体などをとりまとめ、団体間の調整・連携をはかるとともに、事業者・行政との協働の窓口として機能します。



推進体制（環境行動計画版）

【進行管理】

環境基本計画の進行管理フローは、マネジメントの基本的なサイクルであるPDCA サイクル（計画（Plan） → 実行（Do） → 点検・評価（Check） → 改善（Action））にしたがって進行します。

このサイクルは、毎年においては年度別実施計画に基づいた年間の取り組みと進捗状況をまとめた年次報告が基本となります。

① 計画する（Plan）

事務局は、環境基本計画・環境行動計画を基盤として年次の実施計画を策定します。2年目以降は、「環境基本計画推進会議」の結果である「年次報告」に基づき、「環境審議会」および市民・事業者などの意見から庁内担当各課の年次目標を設定し、年次実施計画を策定します。

② 実行する（Do）

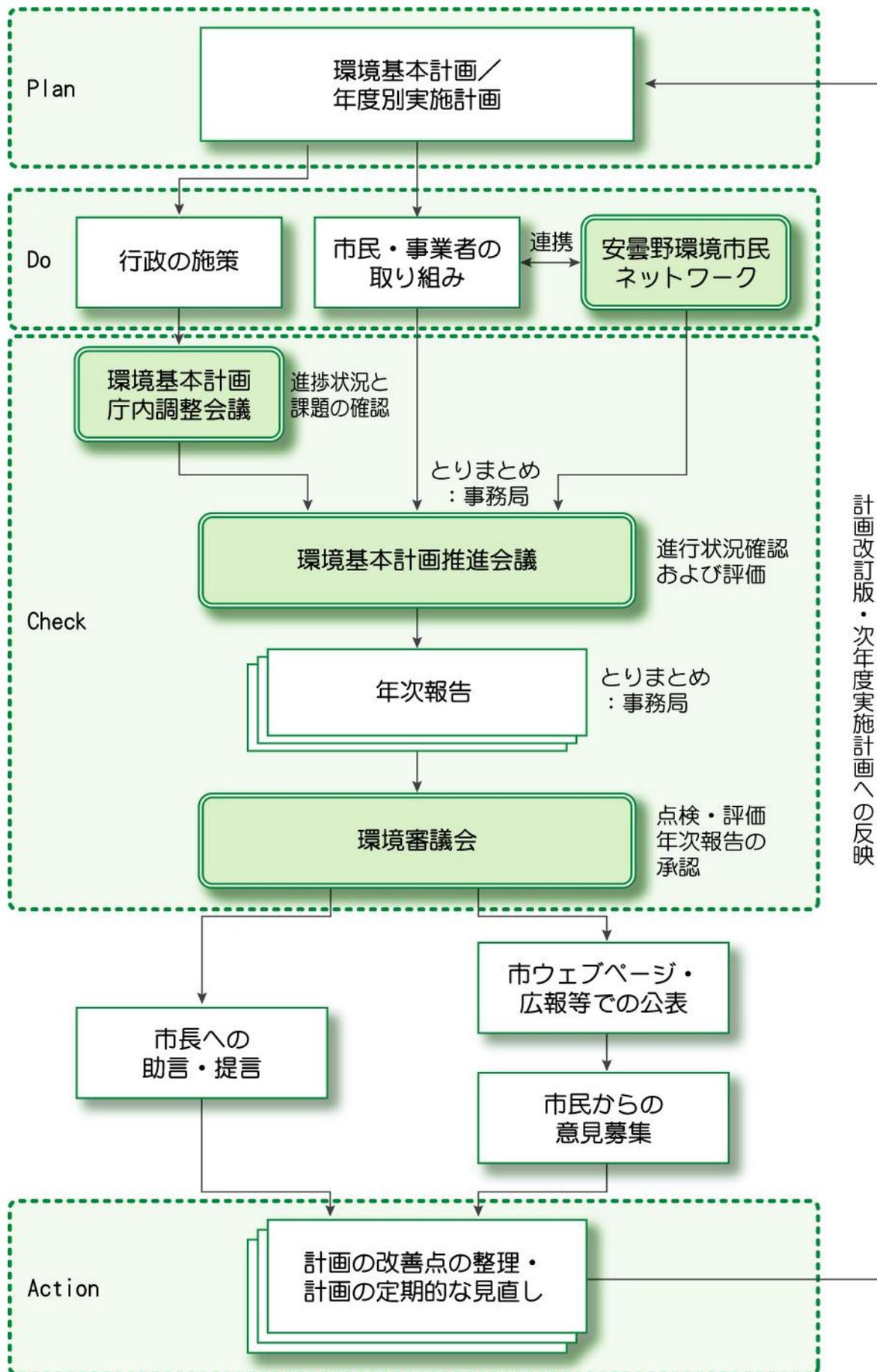
各主体は実施計画に基づき、前項の推進体制に沿って取り組みを進めます。進捗状況については、「環境基本計画推進会議」や「環境基本計画庁内調整会議」において把握し、調整を行います。

③ 点検する・評価する（Check）

事務局は、実施計画に基づき行った取り組みの結果について集約を行い、各会議に報告します。「環境基本計画推進会議」では、市全体の取り組みの結果を集約し、「年次報告」を作成します。「年次報告」は「環境審議会」での点検・評価を行うとともに、広く市民・事業者公表して意見を募ります。

④ 見直す・改善する（Action）

事務局は、「環境審議会」での点検・評価結果、および「年次報告」に対して寄せられた意見について対応を検討し、次年度の年次実施計画への反映と、必要に応じて計画の見直しを行います。



進行管理（環境行動計画版）